

「ベルビア1階北側未利用床を活用した公民連携による交流拠点整備に関するサウンディング型市場調査」結果概要

従来型の「人を呼び込む施策」から必然的に「人が集積する施策」への転換を目指し、ベルビア1階北側の市所有未利用床を活用し、意欲ある市内事業者等と行政が協働で、滞留人口と幅広い経済的な波及効果を生み出す場所を整備し、持続的に運営していく公民連携プロジェクト「(仮称)ワークラボ茅野ナレッジセンター構想(以下「構想」という。)」を形にしていくため、民間事業者から対話形式で意見を募る「サウンディング型市場調査」を実施しました。

本調査の結果を取りまとめましたので、その概要を公表します。

1 実施経過

日程	項目
令和6年8月23日(金)	実施要領の公表
10月3日(木)～10月9日(水)	サウンディングへの参加申込期間
10月22日(火)	サウンディングの実施

2 参加者

1者

3 対話内容

(1) 事業内容について

- ・貸しオフィスを中心としたビジネススペースと市民の交流を中心としたコミュニティスペースの構築、その両者の交流のハード・ソフト両面の機能構築。
- ・市民の「幸せを実現できる」場所として、茅野市の政策に貢献。
- ・「心豊かに学び育ち活躍できるまち」「活力と魅力があふれる稼げるまち」の実現。
- ・若手市民、事業者を中心とした事業主体の組成。

(2) 課題・要望等について

- ・収支シミュレーションによれば本事業を黒字化していくことは決して容易なことではないため、事業の収益性、永続性を担保し、事業撤退のリスクを軽減するためには、極力自由度の高い経営体制とランニングコストに対する何等かの支援が必要。

- ・指定管理での契約形態は、報告業務等により人件費等が増加することになり、経営の自由度や収益性を制限するため、その分の市の負担がなければ事業継続は困難。市事業エリアと民間エリアと分割することについても検討が必要。
- ・施設設計・整備・管理運営方法について、厳しい財政事情や収益性、事業永続性や責任所在を考えると、民間事業主体による設計・整備から運営組織組成、運営までの一体的な実施が望ましい。
- ・まちづくりの推進を図る活動を行うことを目的とした法人設立は、必要性に応じて検討。

4 今後の予定

参加者からいただいたご意見を参考に、構想の実現に向けた公民連携の手法等の検討を進めます。